

No. 45

November 2007

# CIEC Newsletter

## お知らせ

CIEC 第 68 回研究会報告  
CIEC 第 69 回研究会報告

2007PC カンファレンス開催報告

### 【CIEC 研究会開催案内】

CIEC 第 72 回研究会開催案内

#### テーマ

いまの高校での情報教育と大学入学後の情報リテラシー教育をつなぐもの  
～教科「情報」を履修した高校生・大学生、情報倫理教育のありかた～

- ・日時 12月 22 日（土） 14：00～18：00
- ・会場 大学生協杉並会館 2F 201 202 203 会議室

## CONTENTS

<CIEC 研究会報告>	
・第 68 回研究会報告	2
・第 69 回研究会報告	3
<2007PC カンファレンス>	
・2007PC カンファレンス開催報告	3
<CIEC からのお知らせ>	
・学会賞報告	6
・献本紹介	
・研究会開催案内	

## CIEC 会員状況

<個人会員 885 名>  
教員 655、大学職員 17、  
院生 49、学生 5、  
生協職員 85、企業 27、  
研究員 7、その他 40

<団体会員 88 団体>  
企業 25、生協 57、  
大学 2、高校 1、  
法人 3

CIEC ニューズレター

2007 年 11 月 30 日

発行 : CIEC (コンピュータ利用教育協議会)

編集 : CIEC 運営委員会

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協会館

TEL 03-5307-1195 FAX 03-5307-1196

e-mail jim@ciec.or.jp URL http://www.ciec.or.jp/

## CIEC 研究会報告

(敬称略)

### 《CIEC 第 68 回研究会報告》

テーマ 実践研究における定量的および定性的評価法について  
 日時 2007 年 6 月 24 日 (日) 13:00~17:00  
 会場 同志社大学新町キャンパス 溪水館 1F 会議室  
 講師 同志社大学文化情報学部 宿久 洋  
 司会 大橋 真也 (千葉県立東葛飾高等学校)  
 参加人数 24 名

教育現場での各種調査、評価分析などの重要性が近年ますます増してきていることをふまえ、今年 1 月 5 日、第 66 回研究会で「実践研究における定量的評価の手法に関するワークショップ」が行われた。小中高部会では第 66 回研究会での宿久先生の「必ずしも明確な目的・計画の下にとられていない（大量・複雑な）調査データからの知的発見」という講演で統計分析の重要性を再確認し、今後さらに統計分析の具体的な手法について勉強を深めていくべきであると考えた。勤務校での学校評価、授業評価、また小中高部会で昨年度から実施している情報履修状況調査の分析などに活かしていく考え、統計に関する講演を前回に引き続き宿久先生にお願いすることとした。

前回はアンケート結果の分析をもとにお話しして頂いたが、今回は統計分析の理論から始まり、実践として大学生の大学に対する意識調査データと、今年度の暫定的な小中高部会情報履修状況調査データをもとに、より具体的な手法を交えて講演して頂くことができた。



第 1 部では理論編としてデータ分析の流れについて段階別に順を追って重視、注意すべき点を説明して頂いた。

調査、分析をする際にもっとも重要なことは、「目的が具体的であるか。」ということである。あらかじめ目的がはっきりしていないと、質問事項が多くなりすぎて使わないデータが多くなる。どのような分析をするか、あらかじめ考えてから質問項目などを考えていく必要があるし、また分析前に結果を想定しておくことも重要なことである。

また、定性的評価、自由記述の解析について（テキストマイニング）どのように行うか、尺度水準をきちんと整理しておくことなども調査前にきちんと考えておく必要がある。

データが集まつたら、解析、分析の前にデータを全体からよく眺め、ヒストグラム、箱ひげ図などを使って視覚化するプロセスを行う。じっくりデータを見ることによって欠損値や重複、外れ値などの問題を解析前に確認することができる。

分析の際には、あらかじめ否定したい仮説を立て、偶然起こることかどうかを考えるために、独立性の検定、差の検定（ノンパラメトリック）、分散分析（3 群以上の差）、多重比較などのさまざまな検定、比較を行う。自由記述の分析はテキストマイニングソフトウェアなどを用いると、分かれ書き、構文解析、省略や指示代名詞までの判別を自動的に行うことができるが、その結果を基に、どのように解釈するかが重要であることなどをお話し頂いた。

第 2 部では統計では大学評価のデータ、情報履修状況調査データを基に具体的な解析の手法を実践事例として説明して頂いた。

小中高部会では、情報履修状況調査を分析する際の注意点、今後のアンケート項目の改善など具体的なアドバイスを頂くことができたので、「2007PCC シンポジウム 2」にて発表する際の参考にしたいと考えている。

公演後のアンケート結果では、

- ・統計分析の手法も大切であるが、目的を明確にしておくことの大切さがよくわかった。
- ・充実した内容で大変参考になった、今後も引き続き統計について学びたい。
- ・テキストマイニングについての可能性、興味、魅力を感じた。

など、他にもたくさんの意見を頂いたが、全体に共通していたのは、非常に勉強になり、具体的でわかりやすく、今後の教育活動に役立てていきたいというものであった。また、今後も統計ソフトウェアの演習や具体的な授業評価の手法など、引き続き統計について研究会で取り上げて欲しいとの意見が多く寄せられており、講演を聞いた参加者の意識、興味は非常に高かったといえる。



(文責：永野 直)

## 《CIEC 第 69 回研究会報告》

(敬称略)

テーマ ITS による人にやさしい社会の実現

日 時 2007 年 9 月 29 日 (土) 13:00-17:00

会 場 トヨタ博物館小ホール

参加者 20 名

司 会 大岩 幸太郎 (大分大学)

内 容 講演 「ITS による人にやさしい社会の実現」

辻 紘良 (愛知淑徳大学 現代社会学部教授)

講演 「トヨタ博物館の概要と企画展」

西川 稔 (トヨタ博物館学芸員)

見学 西川氏の案内によるトヨタ博物館見学

本研究会は、研究委員会（旧カンファレンス委員会）の企画によるもので、地方での開催を試みた。

最初に、情報通信技術を活用することにより、安全で快適かつ円滑な交通を実現するためのシステムである ITS（高度道路交通システム）の現状と将来、活用事例をmajiedaご講演を愛知淑徳大学現代社会学部教授 辻 紘良氏からいただいた。世界の中でも急速に高齢化社会に突入する日本では、高齢者という一般的には身体能力の弱くなった人が増加することが予想される。そこで、「人」「道路」「車両」を情報通信技術によって有機的に連携することにより、

- ・安全性の向上
- ・交通の遠隔化
- ・快適性の飛躍的向上
- ・輸送効率の改善
- ・環境保全
- ・産業の創出

をはかることが可能となり「人にやさしい社会」が構築される。我が国の IT 施策の重点項目の一つとして「世界一安全な道路交通社会」が掲げられ、その実現に向けた手段として ITS の活用がうたわれている。すでに全国各地で先進的な取組みがなされており、例えば、東京都「東京ユビキタス計画」、堺市「堺市自律移動支援プロジェクト」、熊本県「くまもと安心移動ナビ・プロジェクト」、静岡県「静岡おもいやりナビ実証実験」などについて報告いただいた。今後も ITS にはさまざまな可能性が期待されており、実験段階である走行中のクルマのワイヤーの動きによる天候情報の収集と配信、車椅子のナビシステムなど実用化に向け開発中である。



次に本研究会の会場となったトヨタ博物館の学芸員である西川稔氏より、トヨタ博物館の概要と博物館の新たなスタイルとも言えるミュージアムシアターとしての運営、またご自身の論文「流行歌・歌謡曲に登場するクルマの研究」についてご講演いただいた。トヨタ博物館は 09 年 4 月で開館 20 周年を向えようとしており、来館者数は最大で年間約 37 万人、

平均 24 万人の規模で運営されている。来館者を増やすための方策の一つとして欧米で 10 年ほど前から見られる、演劇の手法を取り入れた展示・解説であるミュージアムシアターを 2006 年 4 月に試行した。地元大学生の演劇サークルなどの協力もあり、毎回 50 名以上の参加者があり手ごたえを感じているそうである。



館内は日本のモータリゼーションの歴史とその時々の人々の生活文化を重ね合わせて伝えることに主眼を置いた工夫にあふれた展示がされていた。約 120 台にもおよぶ車は、自社の車両に限らずクルマ文化の伝承のために体系的に配置されており、世界にほこる日本の物づくり技術の結晶が数多く展示されていた。

今回の研究会から、今後ますます進展する情報化社会にあって、われわれの生活をサポートする新しい情報技術の可能性を探ることができた。

(文責 酪農学園大学 森 夏節)

### 2007PC カンファレンス開催報告

2007PC カンファレンスは 8 月 2 日(木)～4 日(土)の 3 日間、北海道大学で開催されました。おかげさまで参加総数 810 名を得て盛会のうちに終了致しました。

#### 1. 開催概要

- (1) 開催日時 2007 年 8 月 2 日 (木) ～4 日 (土)
- (2) 開催場所 北海道大学  
(〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)
- (3) 開催テーマ 壁を越える ICT 教育  
一目が輝く新しい学びへ—
- (4) 主催団体 CIEC (コンピュータ利用教育協議会)  
全国大学生活協同組合連合会
- (5) 後援団体 北海道大学、文部科学省、北海道教育委員会、  
札幌市教育委員会、北海道新聞社、NHK 札幌放送局、  
日本教育新聞社
- (6) 実行委員会  
名誉実行委員長： 佐伯 浩 北海道大学 総長  
実行委員長： 大野 栄三 北海道大学  
大学院教育学研究院  
副実行委員長： 佐伯 肇 CIEC 会長  
(青山学院大学)

## 2. 参加者詳細

参加者総数 総参加者数 810 名  
(総参加者数 870 名)

※参加者報告 ( ) 内は 2006 年(立命館大学)実績です。

### (1) 職種別

高等教育機関教員 : 213 名  
初等中等教育機関教員 : 66 名  
大学職員 : 19 名  
学生・院生 : 145 名  
生協職員 : 142 名  
企業・その他 : 45 名  
IT フェア担当・無料参加 : 180 名

### (2) 会員生協の有無(登録者割合)

会員生協あり : 419 名 66.5% (432 名 63.7%)  
その他(小中高含) : 211 名 33.5% (246 名 36.3%)

### (3) CIEC 個人会員 : 231 名 36.7% (243 名 35.8%)

### (4) 開催期間中の CIEC 会員の申し込み 個人会員 14 名 団体会員 1 団体

実施日時 8月2日(木) 10:20~12:00

開催場所 学術交流会館 2階講堂

テーマ 「参加型情報化社会で

Wisdom Of Crowds は構築できるか」

森 健(ジャーナリスト)



## 3. 企画報告

### プレカンファレンス

開催日時 8月1日(水) 13:30~16:30

開催場所 人文・社会科学総合教育研究棟

企画1:「Faculty Development・試験解答の分析による授業改善へのご提案」 22名  
(SAS Institute Japan)

企画2:「Apple 最新情報 & 簡単 Podcasting」 45名



### 全体会

約300名

実施日時 8月2日(木) 10:00~10:20

開催場所 北海道大学 学術交流会館 2階講堂

開会挨拶 大野 栄三

(2007PC カンファレンス実行委員長 北海道大学)

挨拶 佐伯 浩

(2007PC カンファレンス名誉実行委員長 北海道大学総長)

司会 森 夏節(酪農学園大学)

### 講演会

約300名

### シンポジウム1

約300名

実施日時 8月2日(木) 13:00~15:30

開催場所 学術交流会館 2階講堂

テーマ 「新しいネットワーク空間 -その課題と未来-

パネリスト 宮崎 豊久(財団法人インターネット協会 シニアアナリスト/インターネット博物館館長)

田代 光輝(ニフティ株式会社)

辰己 丈夫(東京農工大学 総合情報メディアセンター)

向後 千春(早稲田大学 人間科学学院)

指定発言者 森 健(ジャーナリスト)

岡部 成玄(北海道大学 情報基盤センター)

高瀬 敏樹(北海道札幌旭丘高等学校)

司会: 立田 ルミ(獨協大学 CIEC カンファレンス委員長)



### シンポジウム2

260名

(小中高部会・大学生協職員部会・

北大生協 PCMasters 共同企画)

実施日時 8月3日(金) 15:00~18:00

開催場所 学術交流会館 2階講堂

テーマ 「教える側と学ぶ側の壁」

### 第1部

高校生と大学生の座談会報告

武内 大隼(北海道大学院生(北大生協 PCMasters))

教科「情報」履修状況調査報告

大木 誠一(神戸国際大学附属高等学校)

### 第2部

パネルディスカッション

司会: 大橋 真也

千葉県立東葛飾高等学校(CIEC 小中高部会)

パネリスト

森 夏節(酪農学園大学)

大木 誠一 神戸国際大学附属高等学校  
高橋 将太 京都大学理学部3回生  
武内 大隼 北海道大学院生（北大生協 PCMasters）



### 分科会

分科会論文応募数：173本（昨年143）  
口頭発表：126本（6本辞退）  
ポスター発表：47本（2本辞退）  
「学生論文賞」と「ポスター賞」の受賞者は下記のとおりです。

#### ■最優秀学生論文賞

千葉 玄 産業能率大学 経営学部 経営学科  
「SNSを活用した学習支援環境の設計と開発」

#### ■優秀学生論文賞

野呂 和誉 三重大学工学部電気電子工学科  
計算機工学研究室

「記述式小テストの解答の傾向を把握するための分類手法」

#### ■最優秀ポスター賞

森田 直樹 東海大学総合情報センター  
「コンピュータ操作演習における実演支援ツール」

#### ■優秀ポスター賞（3本）

布施 雅彦 茨城工業高等専門学校

「マルチメディア携帯モバイル端末を活用した学習支援システムの試み」

早坂 成人 室蘭工業大学

「技術者倫理を題材にしたロールプレイソフトの試作」

篠田 有史 甲南大学知的情報通信研究所

「webMathematicaとFlashによる数式の自動採点システム」



### イブニングトーク

開催日時 8月2日(木)18:15~20:00  
開催場所 学術交流会館

1. 「現地実行委員会企画：「日韓におけるこれからの情報教育」 29名
2. 「高校教科「情報」の内容とその現状 -教員採用試験と教員養成を中心に考える-」 19名
3. 「セカンドライフにみるWeb2.0の世界」 20名
4. 「授業における教師の役割を再考する」 8名
5. 「社会人教育のあり方とICT活用を再考する」 14名
6. 「大学生協のイノベーション」 20名

初めて参加された皆様へ 110名

開催日時 8月2日(木)12:00~13:00

開催場所 学術交流会館 第1会議室

はじめてPC Conferenceに参加された方や、CIECに提案（注文）をしてみたいと思っている方との交流。

担当：CIEC会長 副会長 理事

IT (Information Technology) フェア 約700名

開催日時 8月2日(木)15:30~18:30 3日(金)10:00~17:00

開催場所 生協会館3階  
62ブース



### レセプション

開催日時 8月3日(金)18:30~20:00

開催場所 北海道大学 厚生会館（北部食堂）

1. 開会挨拶 柳田 章（北海道大学生活協同組合専務理事）
2. 主催者挨拶 庄司 輿吉（全国大学生協連会長理事）  
佐伯 胖（CIEC会長）



3. CIEC学会賞受賞者紹介 矢部 正之（CIEC副会長）

CIEC学会賞・論文賞受賞者 水野 邦太郎

「本と人・人と人との絆を結ぶ互恵的な読書環境の創出」

誌名：Computer & Education, Vol. 19(2005年),

75-84ページ

4. ポスター賞・学生論文賞受賞者紹介 中村 泰之（2007PCC実行委員分科会担当）

5. 乾杯挨拶 大野 栄三（実行委員長）

6. 次期開催校挨拶 真田 隆裕（慶應義塾生活協同組合専務理事）

## «**2007 年度学会賞・論文賞»**

受賞者名：水野 邦太郎

受賞件名：本と人・人と人との絆を結ぶ互恵的な読書環境の創出  
誌名：Computer & Education, Vol. 19 (2005 年), 75-84 ページ

### 受賞理由

本論文は、現在の我国の教育において強く指摘されている  
読書離れとも相通じる課題を、英語教育の視点から真摯に問  
い直し、 Internet という場を通じて学習共同体(IRC.  
Interactive Reading Community)を実践的に創り上げ、その  
成果を示したものである。

これは、「多読」という『勉強』から『学び』への転換を  
強く意識したもので、共同体における学びの場へと導き、さ  
らに自律的な学習に拍車をかける効果がある。こうした CIEC  
の理念と通じ合う教育を「支援」する実践例は、英語教育に  
限らず、他のどの分野の教育にも適応可能であり、論文賞に  
値する。

(学会賞選考委員会)

報教育と大学入学後の情報リテラシー教育との関係」「今後  
の情報倫理教育のありかたについて」といったことをテーマ  
をさらに深めていくことを目的としています。

「高校での情報教育の現状」に関しては、教科「情報」受講  
に関するアンケートなどから高校生の現状をご報告いただけ  
ます。また情報倫理教育に関しては、情報倫理教育用の教材  
である「情報倫理デジタルビデオ教材」についてその狙いや  
内容をご講演いただきます。

なお、今研究会は大学生協職員部会・小中高部会の共催のと  
りくみです。是非、大学での情報教育や大学生協に関わる方々  
だけでなく、小中高校での情報教育に関わる方々へも参加を  
広くよびかけます。

### ◆プログラム

14:00 - 【報告1】07年4月実施：教科「情報」履修状況のアン  
ケート調査報告

大橋 真也

(千葉県立東葛飾高等学校 / CIEC小中高部会世話人)

15:00 - 【報告2】07年7月実施：高校生と大学生の座談会報告  
CIEC大学生協職員部会世話人

16:00 - 【講演】「情報倫理デジタルビデオ教材」の狙いと内  
容について

辰己 丈夫

(東京農工大学 総合情報メディアセンター准教授)

17:30 - 質疑応答

18:00 - 終了予定

### 詳しくは

<http://www.ciec.or.jp/ja/study/index.html> を  
ご覧下さい。

## «**CIEC 研究会開催案内»**

(敬称略)

### CIEC 第 72 回研究会開催案内

#### ◆テーマ

いまの高校での情報教育と大学入学後の  
情報リテラシー教育をつなぐもの  
～教科「情報」を履修した高校生・大学生、  
情報倫理教育のありかた～

◆日 時 12 月 22 日 (土) 14:00~18:00  
◆会 場 大学生協並会館 2F 201 202 203 会議室

#### ◆開催趣旨

CIEC 大学生協職員部会・小中高部会・北大生協 PCMasters は、  
07年度PCカンファレンスにおいて「教える側と学ぶ側の壁」  
をテーマにシンポジウムを開催しました。このシンポジウム  
では大学1年生対象に行われた教科「情報」受講に関するアン  
ケート（小中高部会主催）の中間報告、また6月に開催した関  
西と東京の高校生と大学生の座談会などが紹介され、「情報  
の授業を受けている高校生が、大学でさらに情報教育を受け  
ることの意味」「中学・高校での携帯電話の扱い」など、さ  
まざまな意見がだされる場となりました。

これを受け今回の研究会では、大学に入学してくる高校生  
が受講している情報教育について現状を知り、「高校での情